

代 表 者

林
田

研 修 及 び 視 察 報 告 書

令和8年5月18日

会派代表者 殿

呉市議会議員

林 田 浩 秋

梶 山 政 孝

柳 田 一 郎

佐 伯 航 一 郎

河 原 初 海

田 中 み ね 子

片 岡 慶 行

次のとおり研修参加及び視察したので報告します。

1. 研修・視察期日

令和8年5月11日（月）～5月13日（水）

2. 研修・視察項目

- ①研修：我が国の安全保障体制と呉地域の動向（東京都千代田区）
- ②研修：国の医療・介護・福祉政策の動向について（東京都千代田区）
- ③視察：悩み相談AIチャットシステムについて（千葉県柏市）
- ④視察：介護テクノロジーの活用について（社会福祉法人 善光会）

3. 参加議員

林田浩秋、梶山政孝、渡辺一照、片岡慶行、田中みわ子、河原初海、佐伯航一郎

【東京都千代田区：衆議院第一議員会館】

■研修項目

我が国の安全保障体制と呉地域の動向

■対応者

衆議院議員 寺田 稔

防衛省整備計画局 防衛計画課 総括班長 関口幸秀

防衛省防衛政策局 戦略企画参事官付 防衛部員 宮本勉

■研修日時

令和8年5月11日（月） 午後2時から午後3時15分

■研修内容

冒頭、寺田稔衆議院議員より、最新の国政動向について説明頂いた。

続いて、激変する安全保障環境における自衛隊の組織改編について、今の海上自衛隊呉地区の概要、自衛隊海上輸送群の新編や宇宙領域専門部隊の動向などについて説明があった。加えて、日本製鉄株式会社瀬戸内製鉄所呉地区跡地の「多機能な複合防衛拠点」について、呉市議会における説明と同様の内容を改めて丁寧に説明頂いた。

■呉市での展開の可能性

創設以来最大級とされる組織改編による自衛隊の変化、安全保障における呉地域の重要性を再認識した。引き続き国の安全保障の動向について適切に理解を深めるとともに、「多機能な複合防衛拠点」や新たな部隊が今後の市民生活や経済活動に影響を及ぼしていくのかについて丁寧な議論をおこなってまいりたい。

■研修項目

研修：国の医療・介護・福祉政策の動向について

■対応者

衆議院議員 新谷正義

厚生労働省医政局 地域医療計画課 課長補佐 荒川直紀

厚生労働省医政局 地域医療計画課 救急・周産期医療等対策室 室長補佐 早野駿佑

厚生労働省医政局 地域医療計画課 医師確保等地域医療対策室 地域医療専門官 山内優也

厚生労働省医政局 地域医療計画課 医師確保等地域医療対策室 係員 丸山裕晃

厚生労働省医政局 総務課 課長補佐 上野真史

厚生労働省老健局 総務課 課長補佐 池田 鎮

厚生労働省老健局 総務課 課長補佐 角地 孝洋

厚生労働省老健局 高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 室長補佐 和田 淳平

厚生労働省社会・援護局 地域福祉課（併任）地域共生社会推進室 課長補佐 梁瀬 晃

厚生労働省社会・援護局 地域福祉課（併任）地域共生社会推進室 支援調整係長 山崎 彩夏

■研修日時

令和8年5月11日（月） 午後3時30分から午後4時45分

■研修内容

厚生労働省から以下の説明を受けた。

① 医政局からの説明

・新たな地域医療構想について

2025年以降の「ポスト地域医療構想」として、病床の機能分化・連携に加え、外来・在宅医療、介護との連携、および人材確保を一体的に捉える提供体制の構築が示された。

・周産期・小児医療体制の確保

広域的な連携を通じ、限られた医療資源で安全な出産環境や小児救急体制を維持するための新たな財政支援や広域調整の在り方を確認した。

・オンライン診療について

医療法改正に伴い、オンライン診療を行うための「医師非常駐の診療所」の開設基準を明確化。面積要件の撤廃や、不適切なローカルルールを防止するための事務手続の標準化（合理化）が進められており、物理的距離を解消する医療アクセスの確保策について調査した。

① 老健局からの説明

・地域包括ケアシステムの深化について

認知症高齢者や単身世帯の増加に対し、地域の特性に応じた住まい・生活支援の重要性が強調された。特に離島・へき地における介護サービス確保対策、タスクシェア・タスクシフトの推進など様々な事業について説明を受けた。

・介護現場の生産性向上について

総合的な介護人材確保対策の主な取組、省力化投資促進プラン（介護分野）の概要などについて説明を受けるとともに、介護ロボットやICTの導入による業務の効率化、デジタル人材の育成、ケアプランデータ連携システムなどについても説明を受けた。

① 社会・援護局からの説明

・地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の整備について

包括的な支援体制整備の一つである「重層的支援体制整備事業」について今後の見通し

を含めて説明を受けた。

最後に、新谷正義衆議院議員より最新の国政動向について説明頂いた。

■呉市での展開の可能性

呉市が直面する医療・介護インフラの維持という喫緊の課題に対し、今回の視察で示された国の新たな支援パッケージは極めて有益な示唆を含むものであり、呉市においても積極的に活用を検討すべきである。

医療体制については、国の最新動向を注視しつつ、島しょ部や人口減少地域を多く抱える呉市特有の地理的条件に適した提供体制の在り方について、引き続き議論を深化させる必要がある。

また、介護現場の課題解消に直結するロボット・ICTの導入、デジタル人材の育成、及びケアプランデータ連携システムの構築は、業務効率化の観点から最優先で取り組むべき事項であり、呉市での早期展開に向けた方向性を模索したい。あわせて、重層的支援体制整備事業に関する最新の財政支援状況を踏まえ、今後とも国の支援策を戦略的に活用しながら、包括的な支援体制の整備と地域共生社会の構築を推進してまいりたい。

【研修の様子】



【千葉県柏市】

■視察項目

悩み相談A I チャットシステムについて

■対応者

柏市福祉部 福祉政策課 泉田康彦

柏市福祉部 福祉政策課 課長補佐 松林学

柏市福祉部 福祉政策課 主事 剣持奈緒

柏市議会事務局 次長兼議事課長 石田清

■視察日時

令和8年5月12日（火） 午前10時から午前11時30分

■視察内容

柏市では、「悩みを抱える市民を誰ひとり見捨てない」社会の実現に向け、令和4年度より重層的支援体制整備事業の中核的なツールとして、傾聴共感型A I チャット相談システムを導入している。導入の背景には、市民側の「相談窓口の複雑さ」や「対面相談への心理的ハードル」、支援現場における「膨大な傾聴業務による負担」や「潜在的な要支援者へのアウトリーチ不足」という課題があり、これらを解消するデジタル施策として本システムが採用された。

本システムの最大の特徴は、公認心理師等の知見を学習したA I による「共感的対話」にある。A I が相談者の感情を否定せず受け止める「非審判的な傾聴」を行うことで孤独感を和らげるとともに、24時間365日の即時対応により、深夜・早朝の精神的不安を支えるセーフティネットとして機能している。

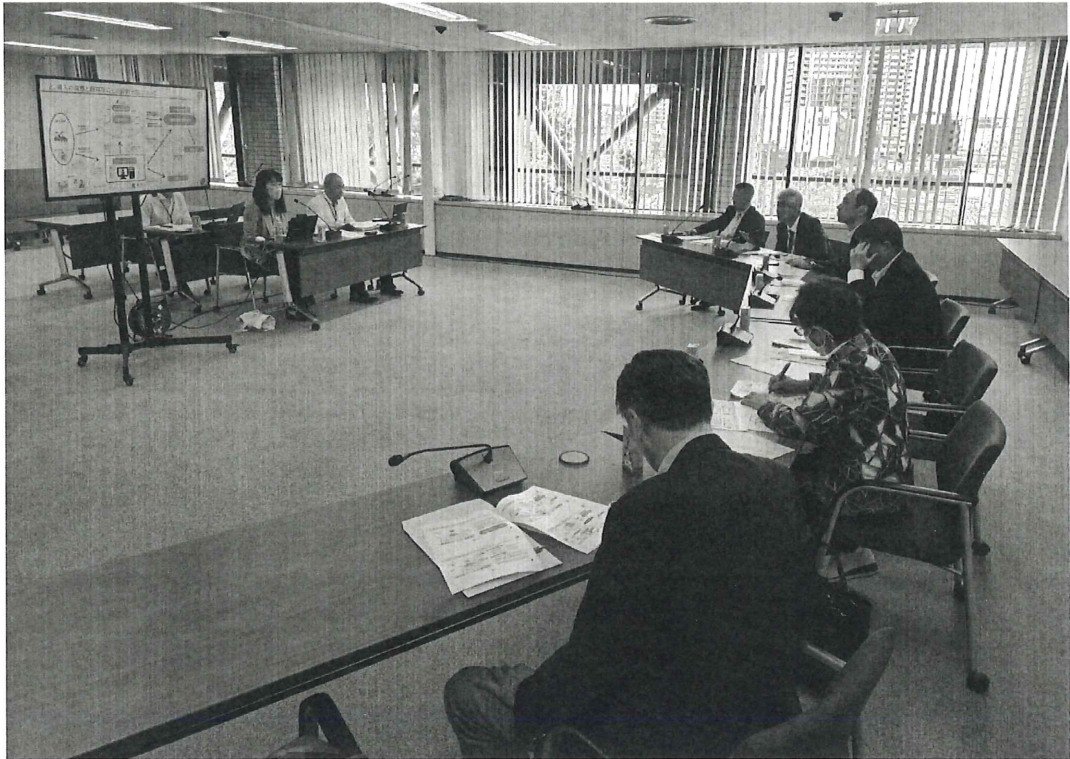
運用効果としては、利用層の約7割が10代～40代に集中しており、特に「人ではなくA I だからこそ本音を話せる」という特性が、既存の相談手段を利用しなかった若年層の心理的障壁を下げる有効なアウトリーチ手段となっている。A I が一次相談を担うことで業務が最適化され、職員が対面支援や複雑なケースワークに特化できる環境が整うなど、支援の質の向上と現場の負担軽減が両立されている。

■呉市での展開の可能性

柏市が導入した「傾聴共感型A I」チャットシステムは、これまで届かなかった層へ効果的にアプローチできる可能性を秘めている。また24時間365日いつでも対応可能な窓口として、相談者が自力で気持ちを整理することを助ける（一次予防）だけでなく、A I が、必要に応じて行政の担当窓口やカウンセラー等の専門家へスムーズに誘導する役割も期待できる。

このように、A I と人間の明確な役割分担を構築することは、支援の質の向上と現場の負担軽減を両立させることにつながり、呉市においても極めて有益であると考えられる。デジタル技術を活用した次世代のセーフティネット構築に向け、呉市における導入の可能性を積極的に模索していきたい。

【視察の様子】



【東京都千代田区：衆議院憲政記念館】

■視察項目

憲政記念館見学

■視察日時

令和8年5月12日（火） 午後2時から午後3時

■調査内容

我が国における議会制民主主義の歩みや憲政の歴史、とりわけ女性の参政権獲得と議会政治への参画にいたる変遷について、貴重な歴史的資料の視察を通じて知見を深めた。また、現在進められている新たな憲政記念館の整備計画についても説明を受け、憲政の歴史を次世代へ継承し、広く情報発信していくための今後の展望について把握した。

■呉市での展開の可能性

議会制民主主義の最前線を担う地方議会議員として、先人が築き上げてきた議会政治の歴史的足跡を再認識する貴重な機会となった。この知見を踏まえ、国と地方における議会の今後の在り方について改めて議論を深化させていく必要がある。今後の議会改革や市民に開かれた議会運営、主権者教育の推進等に活かし、呉市議会の更なる発展と地方自治の深化に寄与してまいりたい。

【視察の様子】



【東京都大田区：社会福祉法人善光会】

■視察項目

介護テクノロジーの活用について（社会福祉法人善光会）

■対応者

株式会社善光総合研究所

社長室 社長特命補佐 営業開発部事業連携グループリーダー 杉浦岳志

社会福祉法人善光会 サンタフェ総合研究室 田部井達也

■視察日時

令和8年5月13日（水） 午前10時から正午

■視察内容

深刻な人材不足に対応するための「スマート介護」の先進施設を現地視察した。センサー活用による入居者管理、ICT活用による記録業務の削減を通じて、捻出した時間を直接的なケアに充てる「生産性向上」の手法を視察した。あわせて、専門資格「スマート介護士」によるテクノロジー運用の重要性を確認した。

■呉市での展開の可能性

呉市の介護現場においても、テクノロジー導入による効率化は不可欠な視点である。職員の負担軽減とケアの質向上を両立させるため、今回の先行事例のノウハウを呉市の介護・福祉施策や事業者支援に反映させていきたい。

【視察の様子】

